

道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

南郷中学校

令和元年10月1日(第17号)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 文化祭が大きな成果を収め終了しました ◆◆

私が開会式で伝えたことをはじめに紹介させていただきます。

『さあ、いよいよ文化祭練習に取り組んできた様々な成果を披露する場面となりました。さて、先輩が口々にすることを紹介します。それは文化祭が、心に強い印象を残し、これからの人生を支える自信をつかみ取ることができた行事だということです。それはなぜでしょう。』

生徒の皆さんは毎日のように学校に通い、勉強や部活動に取り組んでいることと思いますが、日々自分の勉強や部活の成長を感じられる人などいないのではないのでしょうか。これらは長い目で見ると、やっと成長したことに気付くことができるものだからです。あまり変化のない日常を感じるからこそ、飽きが来てしまったり、達成感を感じられなかったりと、時に悩んでしまうこともあるほどです。

ところが、文化祭という行事は、そこが劇的にちがうのです。文化祭のしおりにも書きましたが、文化祭の過程で「上手く歌えない」「上手く弾けない」「上手く振れない」「上手にリードできない」「上手に伝えられない」と、実は多くの生徒がそれぞれの立場で悩み苦しんでいました。目指す目標が本当に高いからこそ、目標との差にみんな苦しみました。スタート時点から今日披露できる完成形の合唱をものにしていくクラスなどどこにも存在しなかったのです。

しかし諦めずに、最後まで高みを目指し続けて進もうとする姿を南郷中生は見せてくれます。その結果、普段はなかなか気付くことのない、自分自身やクラスの成長を目の当たりにすることができるのがこの文化祭なのです。普段見えない、そして気付くことのできない成長体験を自分のものにできたとき、私たち人間は、力強い自信や今後のエネルギーとなる感動を得ることができるのです。

毎年のように3年生がよいものを見せてくれる、それを「乗り越えたい」と、次の学年が諦めることなく目指し続ける姿勢、それこそが「南郷中学校の文化」だとしおりに記させていただきました。

昨年も言いましたが、「壁にぶつかるのは、前に進んでいる証」だということばがあります。その大切な格闘の日々を自分の、自分たちのものにできる。それこそが「南郷中の伝統、南郷中の文化」だと、校長として確信しています。

私は、本当の意味でやりきったといえる文化祭になることを期待しながら、わくわくした思いで今日を迎えました。皆さんの力で素晴らしい文化祭にしましょう。

最後になりますが保護者・地域の皆様、本日は朝早くから本校文化祭に、ご来校いただきありがとうございます。南郷中生徒たちは、必ずや皆さんの心を揺さぶる感動やドラマを見せてくれるものと信じます。是非その目撃者になっていただければと願います。合唱以外の各種発表がこれほど充実した文化祭はめったにありません。様々な場面で興味を引かれると思います。これからの時間存分にお楽しみください。』

では、どんな文化祭だったのでしょうか。保護者の方々の感想の一部から描いてみたいと思います。

【ステージ発表】

- ・「どの発表に対しても、見る側の温かさが感じられました。合唱のハーモニーが素晴らしく、涙が出ました。意見文発表は、内容、発表姿勢とも堂々としていて、とても立派でした。」
- ・「どの生徒も、自信を持ってステージに立っているのと、礼儀正しいので、見ていて清々しいです。」
- ・「素晴らしい文化祭楽しみました。ありがとうございました。最後の大合唱、本当に素晴らしかったです。最高でした。」
- ・「英語がとても上手で驚きました。」・「吹奏楽部 素晴らしかったです!!」・「吹部サイコーでした。」
- ・「FGCや職場体験の1回の経験が、大きく成長した姿に大変驚きました。」

【展示】

- ・「皆さん一つ一つの作品に熱心に取り組んでいる姿勢が良く見て取れました。」
- ・「工夫されており、毎年楽しく拝見しております。」
- ・「ていねいにしあげられたさくひんがおおく、好印象でした。」
- ・「部活などで忙しいであろう夏休みに、丁寧に作品を仕上げているとすごいなあと思います。社会の都道府県調へのポスターが今年は見られず残念でした。」

【生徒の印象】

- ・「ステージ上のアクションに対して応えたり、反応がすごくよくて、お互いの盛り上がる様子を見て、私の時代にはなかったなあとうらやましく、そしてこの中で毎日過ごしている子どもたちが楽しそうで、とても誇らしいです☆ 南郷中ありがとう!!」
- ・「葉山らしい明るくて優しい子だと感じました」「伸び伸びと毎日を過ごしているイメージがある」

「全力校歌!が少しおとなしくなった気がする」「以前に比べるとあいさつが減っている」といった感想も頂きましたが、概ね好評を頂きました。森岡教頭が「葉山中はクラス対抗で燃え上がるイメージなのに対し、南郷中は学年や全校で協力し合っているイメージを練り上げていくイメージ」三浦市から来た市丸教諭が「国語科意見文発表・英語科レシテーションコンテストの歴史と深みに大変驚きを感じる」と表現されたのが印象に残りました。



英語科レシテーションコンテストの歴史と深み

◆◆ 南郷中の伝統と文化について ◆◆

2年間校長を務めて、改めて深く感じるがあります。それは南郷中の持つ伝統の深さと、優れたシステム構築です。

今回保護者の方々から、とても参考・勉強になったと評価の高かった「意見文発表」は、3年生になると文化祭での発表という大舞台が用意されるだけでなく、1学年・2学年での学年発表という経験の積み上げの結果、堂々とした発表に繋がっていくシステムがあります。

これだけでも十分に驚きなのですが、南郷中には英語科が仕掛ける、レシテーションコンテストという大舞台も一方で用意されています。その歴史は大変古く、すでに22年間という歴史を積み上げています。学年毎に異なる暗唱文が用意され、学年チャンピオンを選ぶ過程で、英語の表現力や自信をつけていき、3学年で全校発表という活躍が待っているのです。

国語・英語、どちらも決して人ごとではなく、生徒全員が教科の中で経験してきたものだから、意見文発表もレシテーションもその代表者の意見内容や表現力を一人ひとりが全身で受け止めることができるのです。なんと優れたシステムなのでしょう。

レシテーションの創始者、倉内先生は惜しくもご逝去なさいましたが、その同士であるバルコ先生が全力でこの行事を育ててくださいました。その努力と情熱に、心から敬意を表します。

英語科にはもう一つ「英語科スピーチ」というすごい歴史が始まろうとしています。県を代表する生徒のスピーチが仲間の心に火をつけ、今年は3名の参加者で行われました。県内の中学校で、同じ世代の仲間が、「きょとん」「さっぱり分かん」ぐらいのレベルの英語スピーチ発表をする姿がみられるのは、おそらく南郷中ぐらいではないでしょうか。ものすごいレベルの文化祭が繰り返されているのです。(保護者の方のアンケートで、「字幕か英訳を後ろで流してあげたら」といった声も届いています。)改めて、この教科発表が、歴史をさらに積み上げて、南郷中の特色となっていくことを心から願う次第です。

◆◆ 全国学力学習状況調査の結果を3学年に配付しました。 ◆◆

【学力状況(テスト形式)について】

○3年生は、国語、数学、英語、の計3種類の調査を行いました。全国学力・学習状況調査では、文部科学省は、正答率が平均の±5ポイント以内は、ほぼ同程度と説明しております。その尺度用いて比較したとき、今回の結果は、国語と数学が、ほぼ同程度の状況で、英語は尺度を上回る良い結果となりました。

【意識調査(アンケート形式)について】

○アンケート調査の結果は、全国平均の数値※と比べた結果をお知らせします。(数値はポイントの差を表します)今回は、69の質問事項のうち、56の項目が全国平均を上回る状況がありました。

※全国の平均値と南郷中の数値(重心)を比較するため、以下の計算で算出した二つの数値を比較しました。
重心値 = (4点×Aの人数+3点×Bの人数+2点×Cの人数+1点×Dの人数) ÷ (A~Dの総人数)

○「自分にはいいところがある」「学校に行くのは楽しい」など、自己肯定感に関するポイントが軒並み高かったのが特徴です。「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の設問では、0.62ポイントも全国を上回ったように、様々な課題を学校生活を通して克服していくことができた経験が、大きな自信に繋がったように感じられます。地域や社会・世界に向けられる視線も強く、英語の調査結果が良かったことを裏付ける解答が沢山あったのも特徴です。

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(0.18+)といった、新学習指導要領が目指す、『主体的・対話的で深い学び』に直接的につながるだろう項目が全国平均に比べて高いことや、学習に取り組む時間や、読書時間が長い点も、学力を後押しする要因になっていると思われます。

◆◆ 10月から義務化された自転車損害賠償責任保険への加入について ◆◆

県では、「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が施行され、10月より保険加入が義務化されています。本校は自転車通学を認めているという特性上、この条例をしっかり守らねばならない立場にあります。現在、自転車通学者のほとんどは保険加入を終え、自転車通学をしております。条例なので、加入が間に合わなかった生徒のご家庭には、通学での自転車通学を許可しない旨連絡させていただきました。

さて、こうなると心配なのは、自転車通学はしていないけれど、自転車を所持して、塾通い等で利用しているご家庭です。南郷中学校は自転車通学者に対しては責任を持って本件に対応してきましたが、条例は全ての自転車利用のご家庭へ出されたものなので、加入して頂いたご家庭との温度差があってはならないと考えています。「加入が済んでいないご家庭の自転車通学は認めていない」という事実を、全てのご家庭が真摯に受け止めて頂き、加入が済んでいないご家庭は、自転車通学の有無にかかわらず、すぐに対応して頂ければ幸いです。

自転車事故で高額賠償金の事例が増えているからこそ、そして、ながらスマホやイヤホンスマホでの事故が減ってはいない事実を受け止め、適切にご対応願えればと思います。

◆◆ 文化祭における車の状況への感謝と、土曜参観マラソン大会へのご協力をお願い ◆◆

今回皆様のご協力により、大きなトラブルや事故もなく文化祭を乗り越えることができました。乗り合わせ等にご協力頂きましたこと改めて感謝申し上げます。

さて、10月26日(土)には、土曜参観マラソン大会を迎えます。文化祭と比べ、校内駐車場スペースがマラソン大会のため使えなくなり、駐車場は上ノ山公園の右手第2駐車場のみとなり、乗り合わせ等での来校が必須となりますので、何卒ご協力をお願い申し上げます。